

# 令和3年度 年間授業計画

教科・科目	理科・科学と人間生活	単位数	2単位	学年・分類	2学年
教科書	高等学校 科学と人間生活 (第一学習社)		副教材		

## 1 目標

自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

## 2 学習の到達目標

- 科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解させる。
- 身近な自然の事物・現象及び日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて認識を深めさせる。
- 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察させる。

## 3 指導内容と具体的な指導目標

学期	単元	予定 時数	指導内容	家庭で学習すること（学習形態→確認） 学校で学習すること
学 期	科学技術の発展	26	・科学技術の発展が私たちの現在の生活を豊かにし、便利にしてきたことや、社会の変化に影響を及ぼしてきたことを、身近な科学技術を例示して理解させる。	・新聞、テレビ、インターネット等を参考に調べ学習でプリントを完成する。
	生命の科学 微生物とその利用		・様々な微生物の存在、生態系における微生物の役割、微生物と人間生活とのかかわりなどについて、観察を通して理解させる。	・教科書が配布されてからは、教科書を参考にプリントを完成する。 ・この科目の導入として位置付け、身近な事例を基に科学技術に対する興味・関心を高めることを目標にする。 ・新型コロナを意識しながら、「微生物と人間生活とのかかわり」について学習する。
学 期	物質の科学 材料とその再利用	28	・日常生活と関連する材料からプラスチックと金属を取り上げ、代表的な物質の性質や用途及び資源の有限性や再利用について理解させる。	教科書を参考に、新聞、テレビ、インターネット等をできる範囲で利用し、配布されたプリント等を完成させる。
	熱や光の科学 熱の性質とその利用		・熱の性質、エネルギーの変換と保存、および有効利用について理解させる。	・「プラスチック」については、その成分の違い、化学構造及び燃焼にかかわる安全性について学習する。 ・物体の温度と構成粒子の熱運動との関係を学習する。
学 期	地球や宇宙の科学 身近な自然景観と自然災害	16	・身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、太陽の放射エネルギーによる作用や地球内部のエネルギーによる変動と関連付けて理解させる。	教科書を参考に、新聞、テレビ、インターネット等をできる範囲で利用し、配布されたプリント等を完成させる。
	身近な天体と太陽系における地球		・太陽と月などの身近にみられる天体と人間生活のかかわりや、太陽系における地球について理解させる。	・日本列島の成り立ちを学び、地震・水害・噴火等、最近の災害についても学ぶ。 ・身近な天体について学び、地球が多くの偶然によって生命を育んできたことを学習し、自然環境に対する意識を養う。

## 4 学習者への注意

科学技術の発展が産業や流通、経済にどのように影響を与えたか、物事の流れを把握することが目的である。広く浅く、少しずつ学ぶような構成となっているため、授業展開が早いので欠席はしないように。

# 令和3年度 年間授業計画

## 5 評価の観点・方法

- 定期試験
- ノート検査

# 令和3年度 年間授業計画

教科・科目	地理歴史・日本史A	単位数	2	学年・分類	2学年3修
教科書	高等学校 改訂版 日本史A 人・くらし・未来 (第一学習社)		副教材		

## 1 目標

我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

## 2 学習の到達目標

近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見だし、我が国の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を、世界史的視野に立ち多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。

## 3 指導内容と具体的な指導目標

学期	単 元	予定 時数	指導内容	具体的な指導目標
1 学 期	近代以前の日本 明治維新と近代国家 近代日本へのあゆみ	26	列強の進出と日本の開国 尊王攘夷と討幕運動 大久保政権の成立 士族の反乱と自由民権運動 松方財政と民衆運動 大日本帝国憲法の制定	・ 明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し、自由民権運動がおこり、国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る、一連の動きを理解する。
2 学 期	産業革命と日清・日露戦争 第一次世界大戦 第二次世界大戦への道	28	日清戦争 産業革命と社会問題 日露戦争 辛亥革命と大正政変 第一次世界大戦 独占資本主義の成立 政党政治と昭和恐慌	・ 日清・日露戦争の経緯と結果、また、この戦争を経て、アジアに対して日本が勢力の拡張をおこなったことを理解する。
3 学 期	太平洋戦争 戦後改革と冷戦 経済大国化への道	16	満州事変と挙国一致内閣 日中全面戦争 日米開戦と大東亜共栄圏 占領と民主化 日本国憲法と戦後改革 高度経済成長 石油ショック	・ 軍部の台頭の過程と、これにもなう政治的な状況の変化について理解する。 ・ 中国・アメリカを中心とした国際関係の変化にも着目しながら、太平洋戦争に至る過程を理解する。

## 4 学習者への注意

授業用プリントの書き込み、整理を行うようにする。

## 5 評価の観点・方法

プリントの書き込み、定期テスト、出席状況等を総合的に判断する。

# 令和3年度 年間授業計画

教科・科目	工業 建築構造設計	単位数	2単位	学年・分類	2学年（3修制）
教科書	建築構造設計(実教出版)		副教材		

## 1 目標

建築物に関連する力学の基礎的な事項について学習し、合理的な構造設計ができる能力を養う。

## 2 学習の到達目標

○構造物の安全の必要性を感覚的にとらえさせ、構造物の学習へと発展させる。建築構造物に作用する各力を理解し、単純梁や片持梁における構造計算ができるようにする。

## 3 指導内容と具体的な指導目標

学期	単 元	予定 時数	指導内容	具体的な指導目標
1 学 期	構造物に働く力	26	【建築】【設備】 構造物に働く力 力の基礎 構造物と荷重・外力 反力 安定・静定	力学を学ぶ導入としてとらえて、構造物に働くさまざまな力を説明して、構造物の安全の必要性を感覚的にとらえさせ、構造物の学習へと発展させる。 力および、力のモーメントの概念、定義を理解させる。
2 学 期	静定構造物の部材に生じる力  部材の性質と応力度	28	【建築】【設備】 構造物の部材に生じる力 静定梁 静定ラーメン 静定トラス  構造材料の力学的性質 断面の性質 部材に生じる応力度 梁の変形	構造物の、骨組および節点・支点の構造に関する基本的なことがらを理解させる。 力のつり合い条件から反力を求められることを学ばせ計算できるようにする。 部材に生じる力と外力はつりあうことを理解させる。また、つりあい条件によって部材に生じる力が求められることを理解させる。
3 学 期	構造設計の考え方  耐震被害の低減に向けて	16	【建築】【設備】 構造設計の概要 荷重および外力の計算 耐震設計の二次設計  耐震構造 免震構造 制振構造 耐震診断・耐震補強	どのような外力が建築物に影響を与えるか理解させる。  耐震・免震・制振の基本的な知識を理解させる。

## 4 学習者への注意

学習に必要な筆記用具・教科書などを忘れないこと。また、身近な建築物について、その構造物に働く力など注意深く見るように努力する。

## 5 評価の観点・方法

出席状況・各学期の定期考査・定期的な課題の提出物・授業中の参加態度を総合的に判断し評価する。